

スーパーマッフル・デジタル24以降

国土交通省の国土数値情報の取り込みと編集

<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

CONTENTS	
■ 事前準備①：地価公示データのダウンロード	2
【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み「テキスト編」】	3
【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー分け」】	5
【カスタム情報の地図表示編集】	8
【テキストの応用編：「テキスト」データで出力しグラフ化】	9
■ 事前の準備②：土地用途地域データのダウンロード	12
【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み編集「ポリゴン編」】	13
【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー分け」】	15
【「フォルダー分け」したデータを目的に合わせて「色分け」】	17
■ カスタム情報を結合する応用編	18

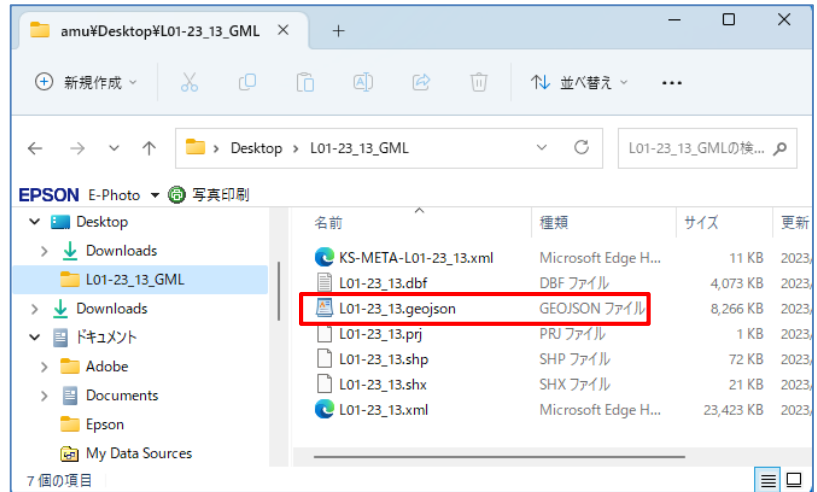
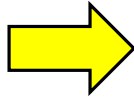
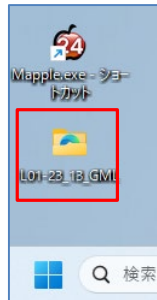
【参考】

国土交通省で提供の、「国土数値情報ダウンロードサイト」から「地価公示」の「L01-23_13_GML」データおよび「土地用」の「A01-19_13」を使用し、マニュアルに記載いたしております。

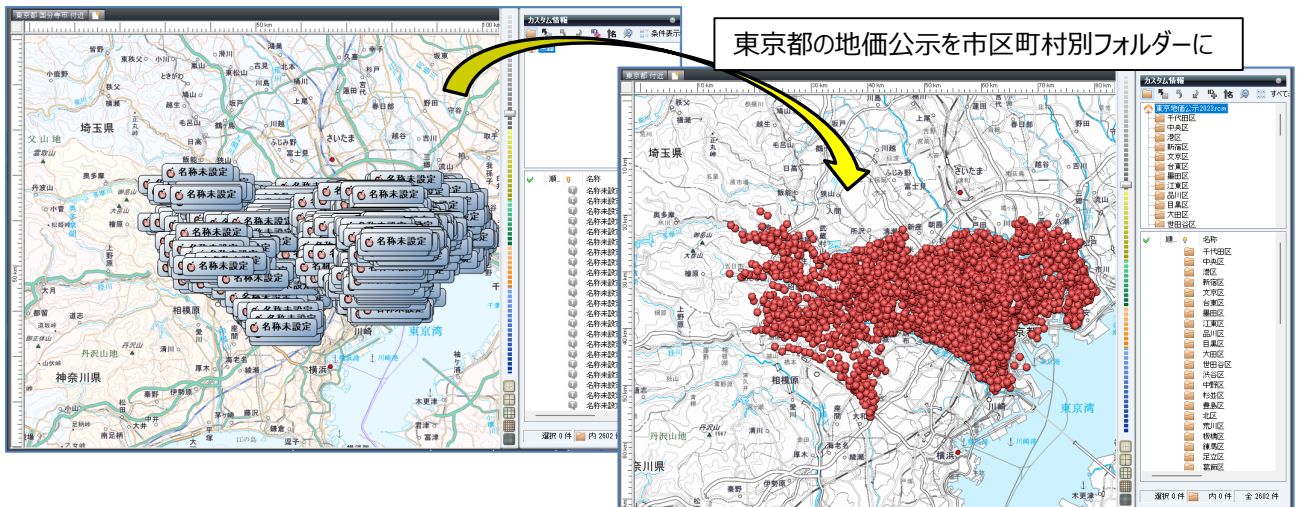
■事前準備①：地価公示データのダウンロード

- ① 「国土交通省」の「国土数値情報」の「地価公示（ポイント）」サイトから、任意のエリアをダウンロードし、ファイルをダブルクリックし、デスクトップに解凍すると、作業が行いやすくなります。

※GMLフォルダー内にある「GeoJSON」ファイルを使用します。



仕上がりイメージ



【GMLフォルダの『GeoJson』を取込み「テキスト編」】

- ① スーパーマップル・デジタルを起動し「取込」の「GeoJson」をクリックし、「L01-23_13.geojson」を「開く」で取込んでください。

【ご注意】他のソフトで該当データファイルを使用していると「取込」ができません。

注：データ量により時間を要する場合があります。

GIS用のデータでは「一般の地図」における名称の項目が設定されていないこともあります。

- ② で任意のデータをクリックすると、カスタム情報プレビューが開き「内容」が表示されます。「名称」にする「項目」を確認し、閉じます。
例：L01_024項目に記載されている「住所」を「名称」に設定します。

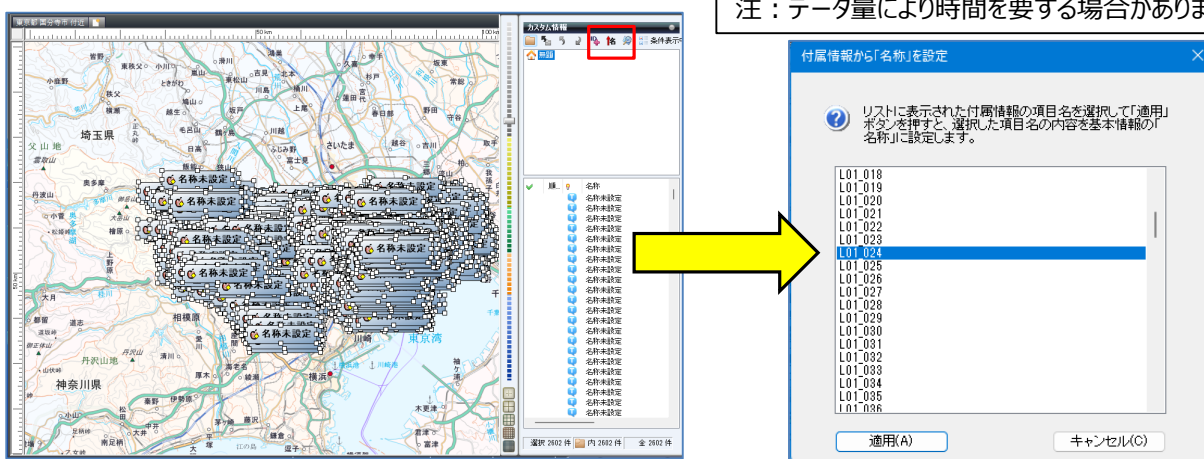
でクリック

内容表示

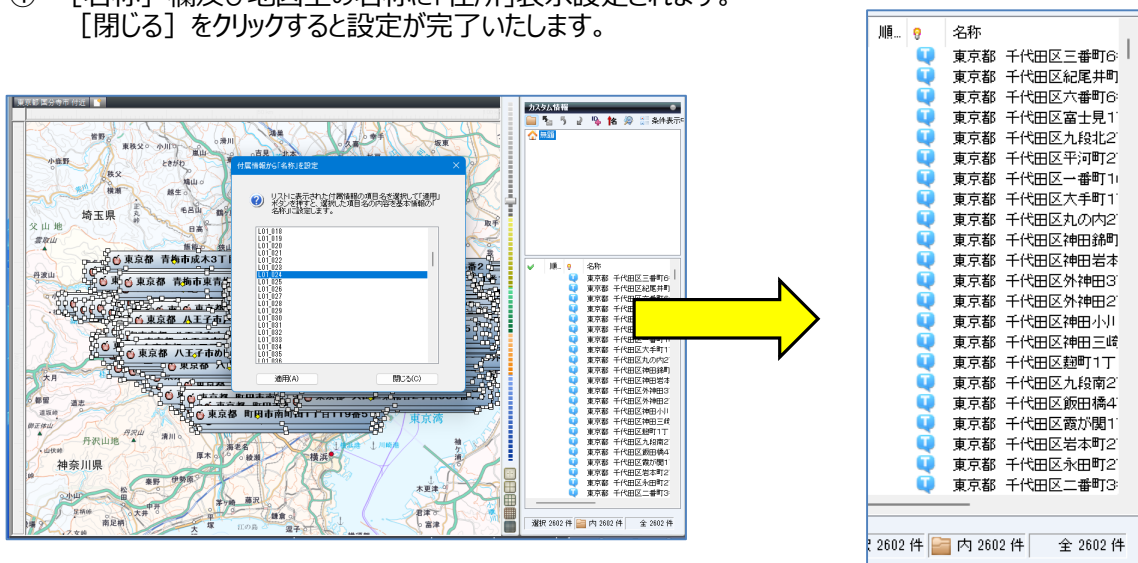
項目	内容
L01_015	false
L01_016	false
L01_017	false
L01_018	false
L01_019	false
L01_020	false
L01_021	false
L01_022	13101
L01_023	千代田
L01_024	東京都 千代田区三番町6番25
L01_025	-
L01_026	969.000000
L01_027	住宅その他
L01_028	共同住宅
L01_029	001
L01_030	SRC
L01_031	true
L01_032	true
L01_033	true

- ③ 「Ctrl+A」で全選択をし、[カスタム情報] 欄にある **名** をクリックします。
[付属情報から「名称」を設定] 画面が表示されますので、②で確認した住所「L01_24」を選択し [適用] をクリックします。

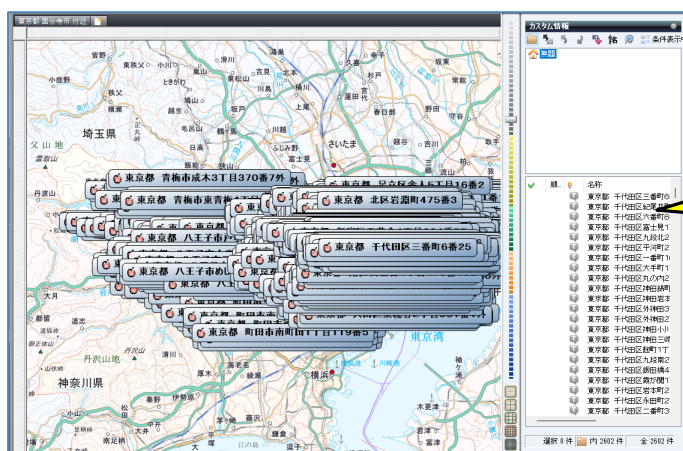
注：データ量により時間を要する場合があります。



- ④ [名称] 欄及び地図上の名称に「住所」表示設定されます。
[閉じる] をクリックすると設定が完了いたします。



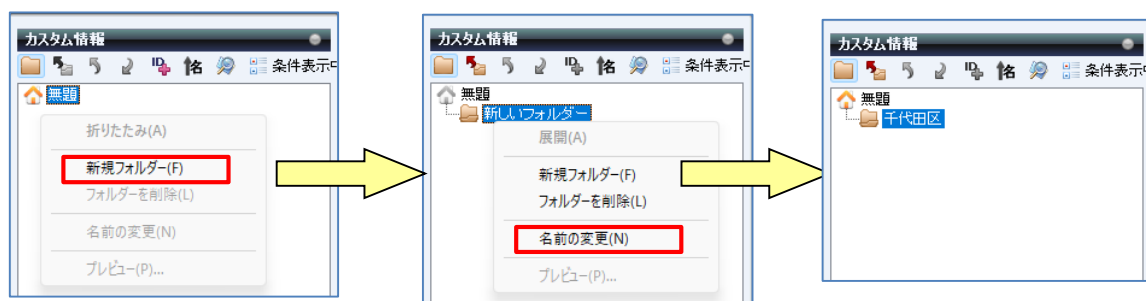
※選択を解除するには、[カスタム情報欄] の空間をクリックするか「Esc」キーで解除します。



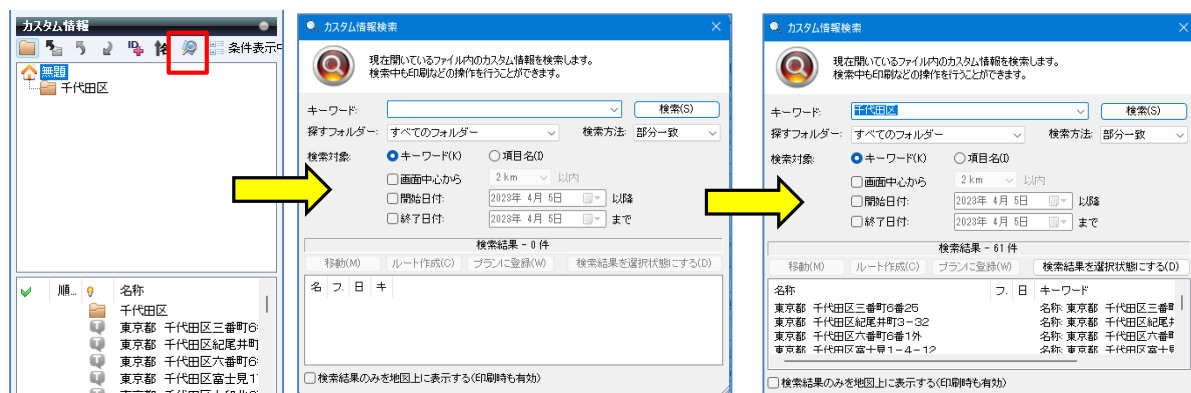
「Esc」キーで選択が解除されます

【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー」分け】

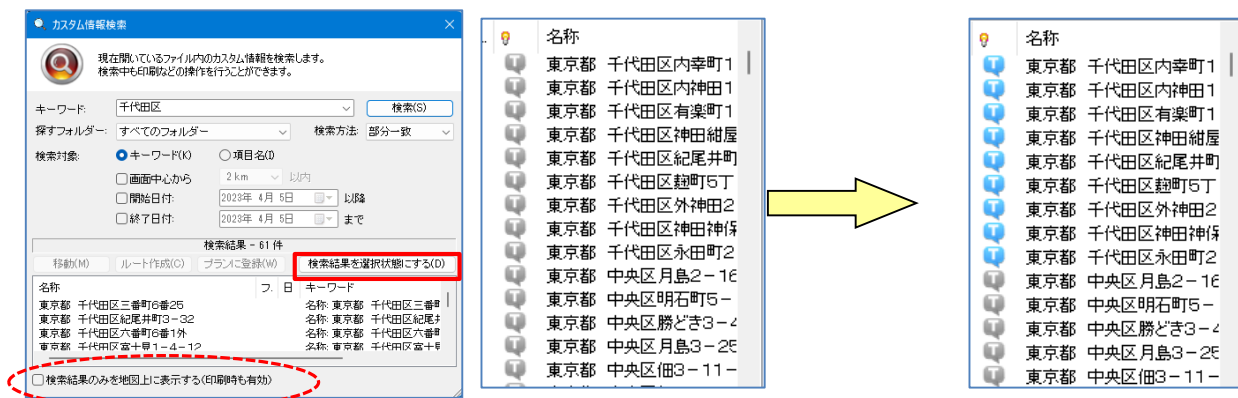
- ① 「地価公示」データを市区町村別に「フォルダー分け」をします。
カスタム情報欄で右クリックし、新規フォルダーをクリック。
[新規フォルダー] を右クリックして、フォルダー名（例：千代田区）を入力します。



- ② にし をクリックで「カスタム情報検索」を開き、[キーワード] に「千代田区」を入力 [検索] をクリック。
※例：設定は「すべてのフォルダー、部分一致、キーワード」で行います。



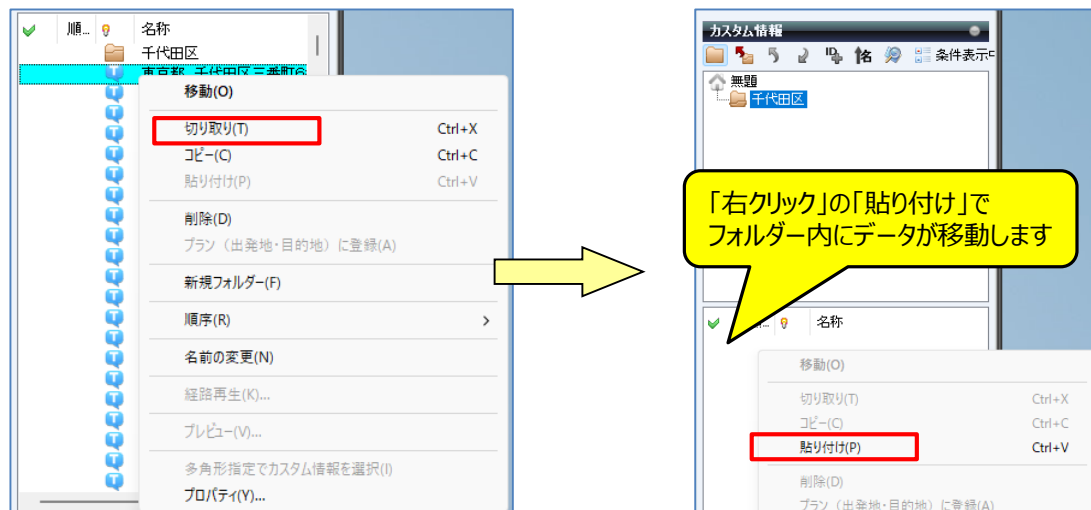
- ③ 入力された「千代田区」で検索されます。
[検索結果を選択状態にする] をクリックすると、該当データが選択されます。



- ※ [カスタム情報検索] 画面下の [検索結果のみを地図上に表示する] に ☒ を入れると、該当データのみを地図表示します。

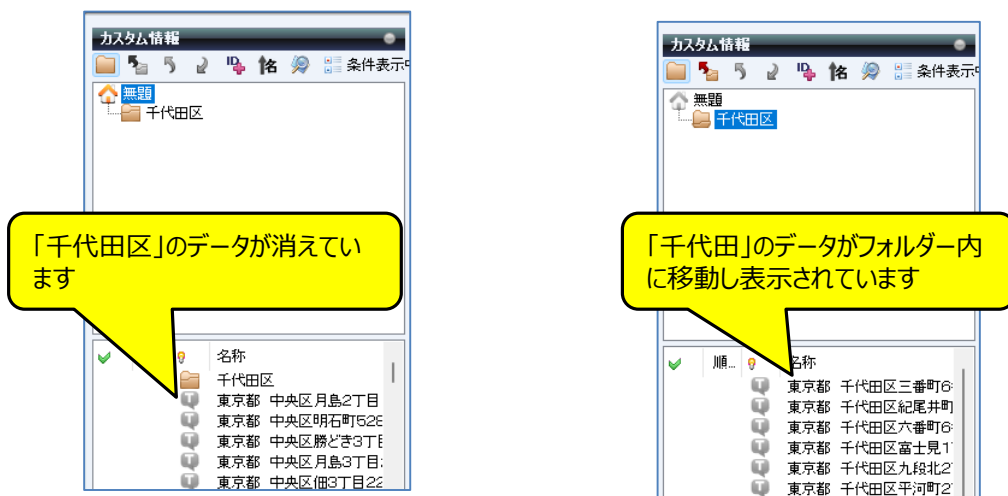
- ④ 検索された該当データ上で右クリックして、[切り取り] を選択します。

「千代田区」フォルダーをクリックして貼り付けます



- ⑤ 貼り付け後、確認するため 無題 をクリックし情報を表示します。

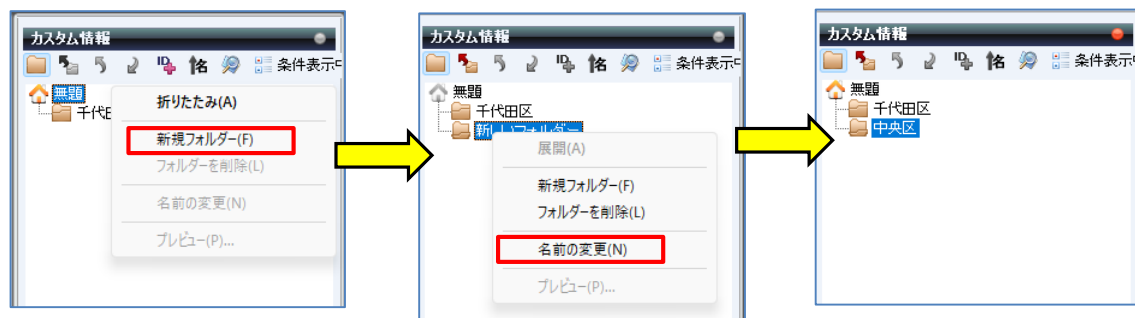
次に「千代田区」フォルダーをクリックします。




【🍎ポイント】新規フォルダーを作成する場合は、その上位のフォルダーをクリックして作成します。

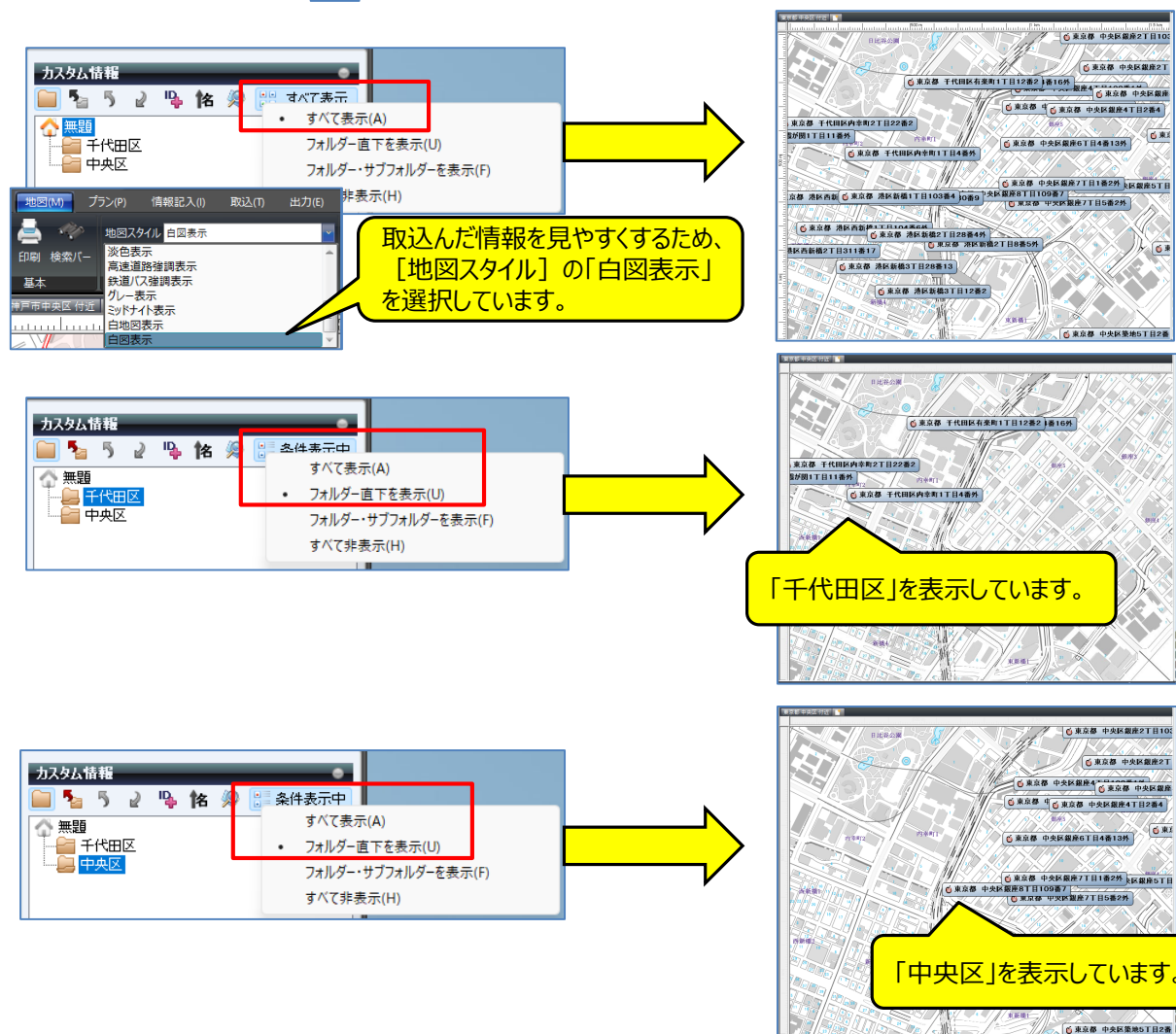
千代田区に続けて中央区以降を作成の場合

※手順：「無題」の「新規フォルダー」⇒「名前の変更」⇒「中央区」となります。



※「フォルダー分け」することによりデータ整理ができ、以降の工程の作業がしやすくなります。


⑥ 「カスタム情報欄」の  を活用すると、該当のフォルダーのみの地図表示ができます。

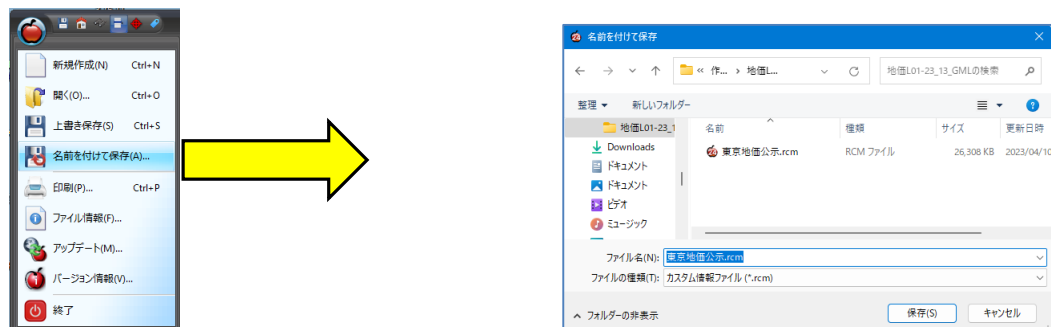


取込んだ情報を見やすくするため、「地図スタイル」の「白図表示」を選択しています。

「千代田区」を表示しています。

「中央区」を表示しています。

⑦  をクリックし「名前を付けて保存」を選択。スーパーマップル・デジタル用ファイル「カスタム情報」として保存してください。作業を途中で終了するときでも「保存」してください。後に保存したカスタム情報（rcmファイル）で続けることができます。




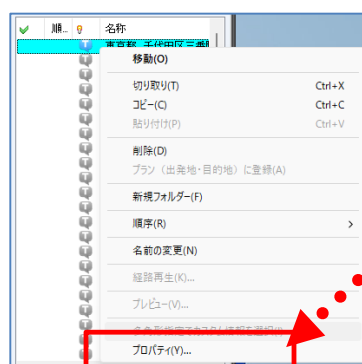
【参考】

カスタム情報として保存するとき前に「情報記入」タブの「ホーム登録」をクリックすると、起動時のホームポジションとして設定され表示されます。



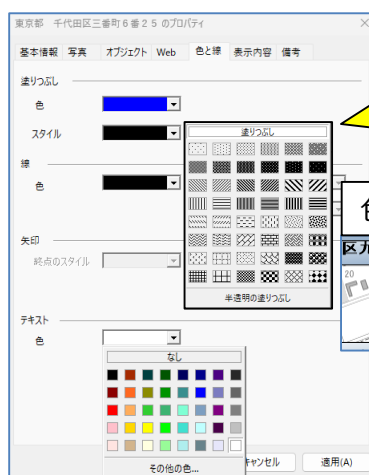
【カスタム情報の地図表示編集】

- ①  で「カスタム情報」欄の「該当名称」を右クリックし、[プロパティ]を選択してください。



メニューから[プロパティ]を選択

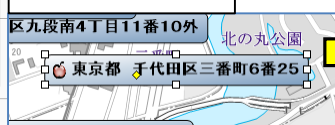
- ② 「色と線」タブを選択します



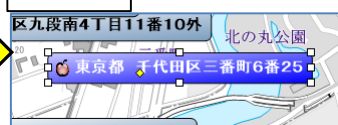
【色と線】タブの場合

例：[塗りつぶし] の [色] を「青」
[スタイル] を [塗りつぶし]
[線] を「黒」
[テキスト] を「白」

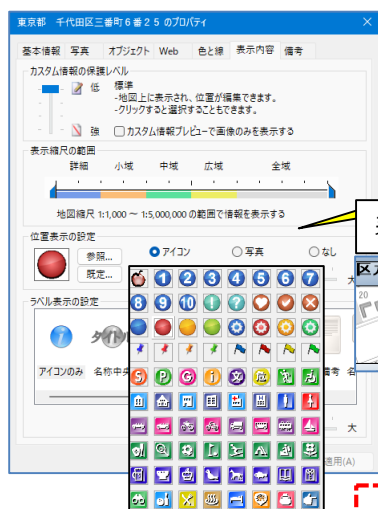
色と線の設定前



設定後



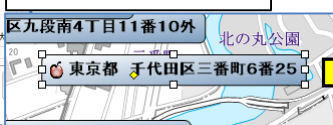
- ③ 「内容表示」タブを選択します



【表示内容】タブの場合

例：[位置表示の設定] の [アイコン] の [既定] で「赤丸」を選択
[ラベルの設定] は「アイコンのみ」を選択
※ [サイズ] はスライドさせて設定します。

表示内容の設定前



設定後



※ 「色と線」 「表示内容」 で、表示方法を試してください。
イメージがつかめるので、実際に表示方法を変更されることをおすすめします。

【テキストの応用編：「テキスト」データで出力しグラフ化】

※カスタム情報で保存された東京地価公示.rcmファイルを使用します。

- ① 保存したカスタム情報を開き、「出力」の「テキスト」を選択し、「テキスト情報・写真データの出力」、「世界測地系」を選択、「次へ」をクリックし、[名前を付けて保存] で「ファイル名」を記載し、「保存」します。

The screenshot shows the SuperMap Digital software interface. The 'Output' menu is open, and the 'Text' option is selected. The 'Text' dialog box is displayed, showing the 'World Geodetic System (WGS84)' option selected. The 'Save As' dialog box is also open, showing the file name '東京地価公示.csv' and the file type 'Text file (*.csv; *.txt)'. The 'Save' button is highlighted.

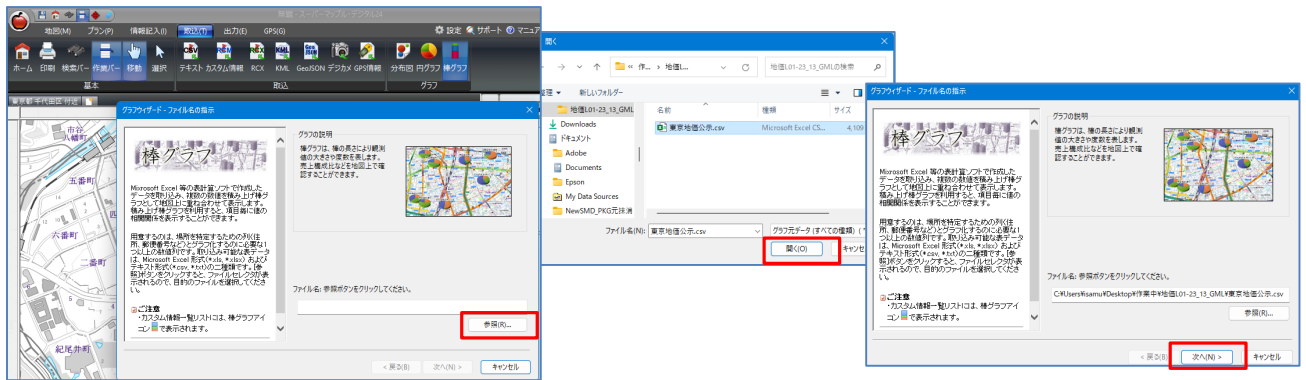
- ② 保存した「東京地価公示.CSV」を、[Excel] で開き、確認してください。
スーパーマップル・デジタルでの項目が追加されています。
(注：マニュアルはグラフに必要な項目だけを選択し記載)

The screenshot shows the Excel spreadsheet with the data from the '東京地価公示.csv' file. The spreadsheet has columns for name, coordinates, and various numerical values. A yellow callout points to the 'L01_06' column, and a blue callout points to the 'SuperMap Digital' column.

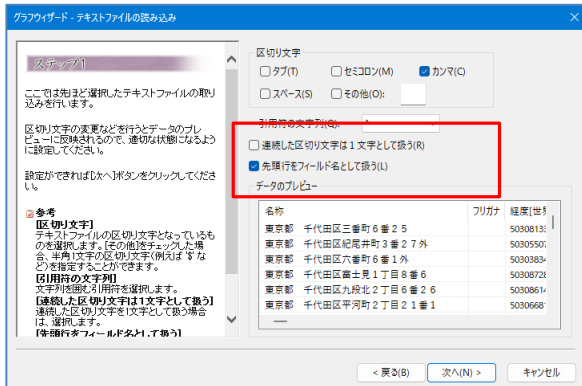
名称	経度[世界測地系]	緯度[世界測地系]	アイコンID	フォルダー	引出線	L01_001	L01_002	L01_003	L01_004	L01_005	L01_006	L01_007	L01_008	L01_009
東京都 千代田区三番町	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	1	0	1	2023	3340000	3.1	1	FALSE
東京都 千代田区紀尾井	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	2	0	2	2023	2110000	3.4	1	FALSE
東京都 千代田区六番町	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	3	0	3	2023	4280000	3.1	1	FALSE
東京都 千代田区富士見	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	4	0	4	2023	1620000	3.2	1	FALSE
東京都 千代田区九段	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	5	0	5	2023	3110000	3.3	1	FALSE
東京都 千代田区平塚	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	6	0	6	2023	1900000	3.3	1	FALSE
東京都 千代田区一ツ橋	139.750000	35.680000	0/	0	0	0	7	0	7	2023	3180000	3.2	1	FALSE
東京都 千代田区大塚	139.750000	35.680000	0/	0	0	5	1	5	1	2023	14100000	0.7	1	FALSE

スーパーマップル・デジタルで追加された項目

- ③ スーパーマップル・デジタルの「取込」の「棒グラフ」をクリックし、「グラフウィザード」の「参照」で、「東京地価公示.csv」を選択し、「開く」の「次へ」で取込みます。




- ④ 「データのプレビュー」で表示されているデータを確認し、「次へ」。

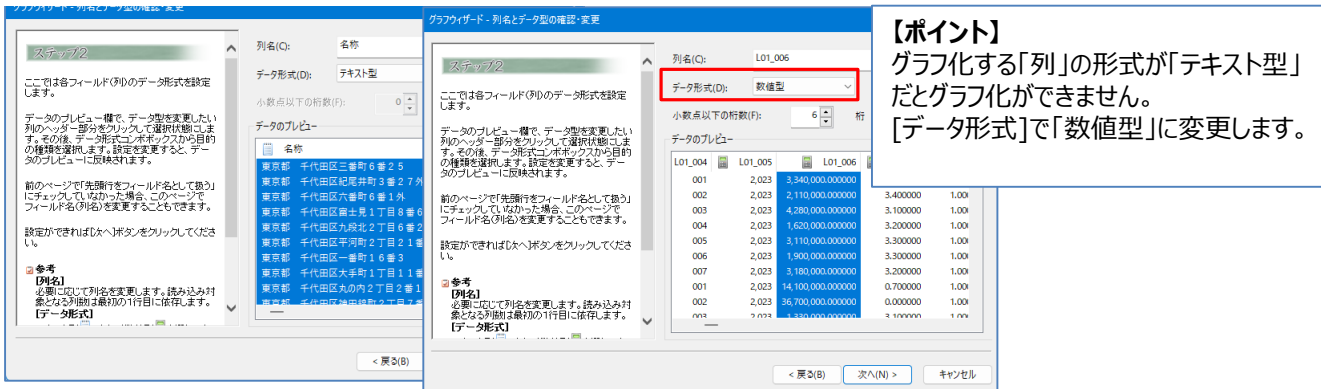


【ポイント】

「先頭行をフィールド名として使う」に☑が入っていること。
*フィールド名はどの列をグラフに割り当てるか、設定するときの名称（項目名）です。

- ⑤ 列名とデータ形式を横のスライダーで確認し、「次へ」をクリックします。

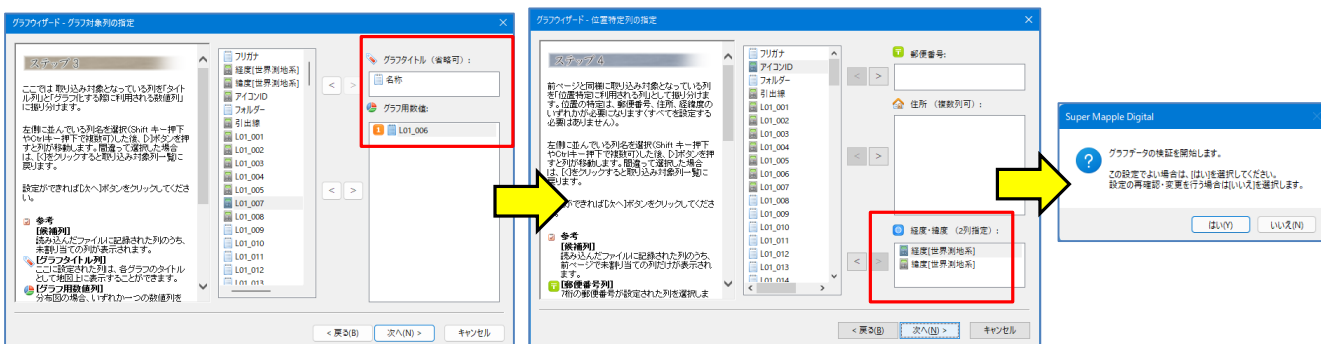
・項目の名称をクリックするとデータ形式がわかります。また項目名の前にある「数値アイコン」で確認できます。



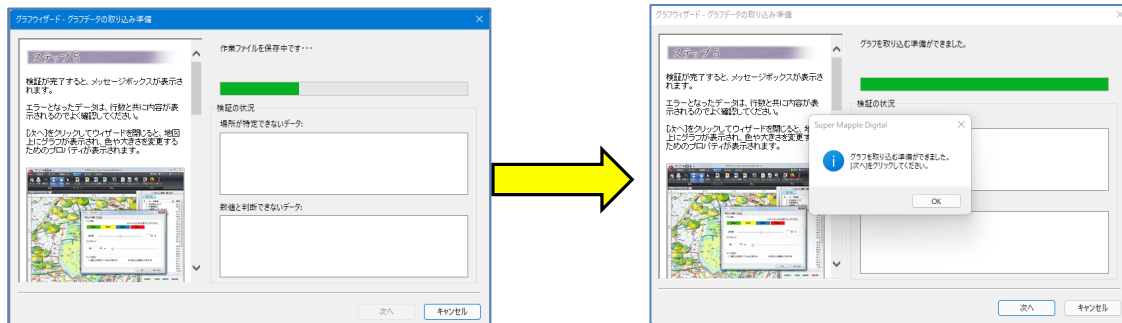
【ポイント】

グラフ化する「列」の形式が「テキスト型」だとグラフ化できません。
[データ形式]で「数値型」に変更します。

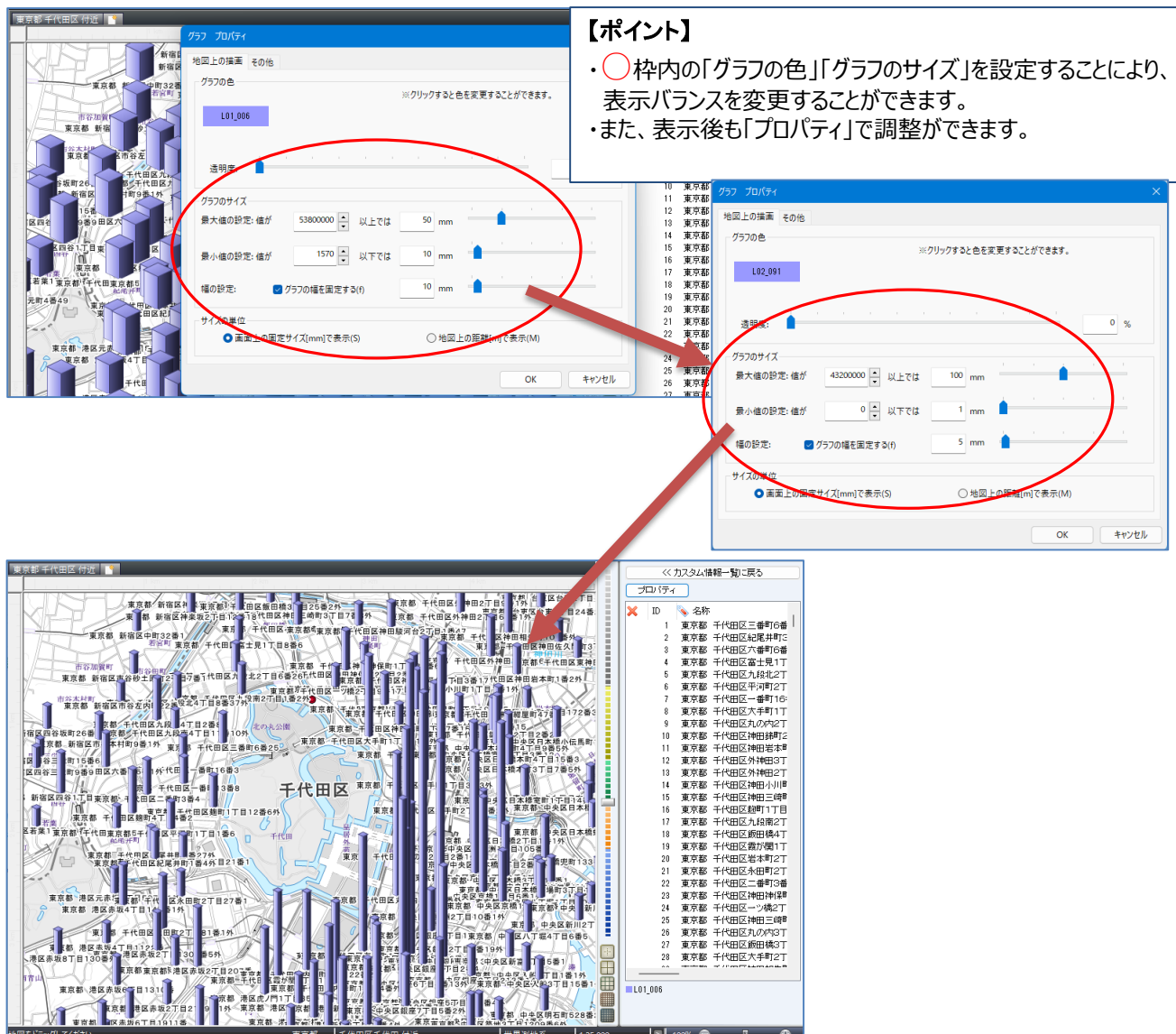
- ⑥ グラフタイトルには通常「名称」を選択し、「グラフ用数値」に任意の項目を選択し「次へ」。(例：L01_006)
「経度・緯度」を選択し「次へ」の「はい」をクリックすると「データ」を読み「グラフ」化を行います
*「グラフタイトル」は省略してもかまいません。



- ⑦ グラフ化の準備が始まります。(注：データ量により時間を要する場合があります)
完了しましたら、[OK] の [次へ] をクリックしてください。



- ⑧ グラフが表示されますので任意に設定してください。
(例：最大値の設定で100mm、最小値は1mm、幅の設定は5mm)

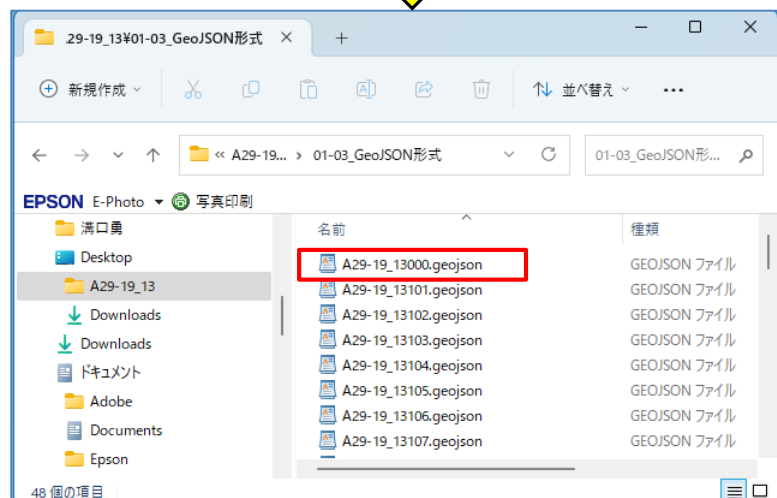
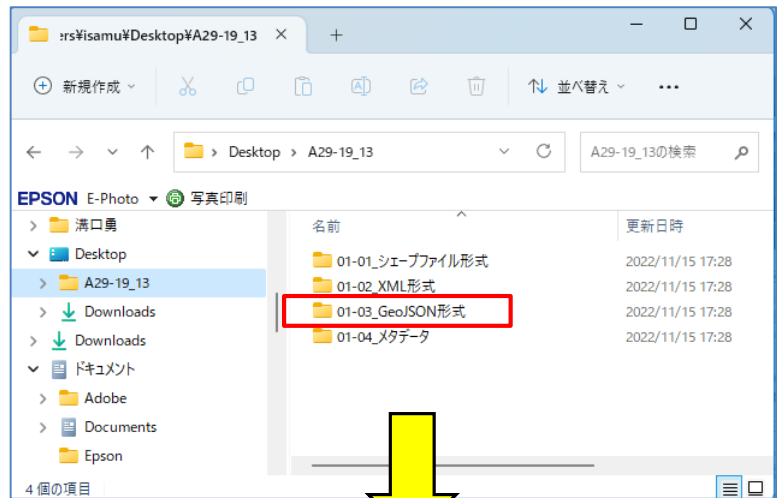
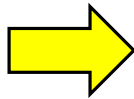
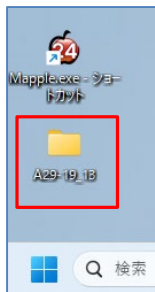


- ⑨ 完了しましたら、「保存」します。

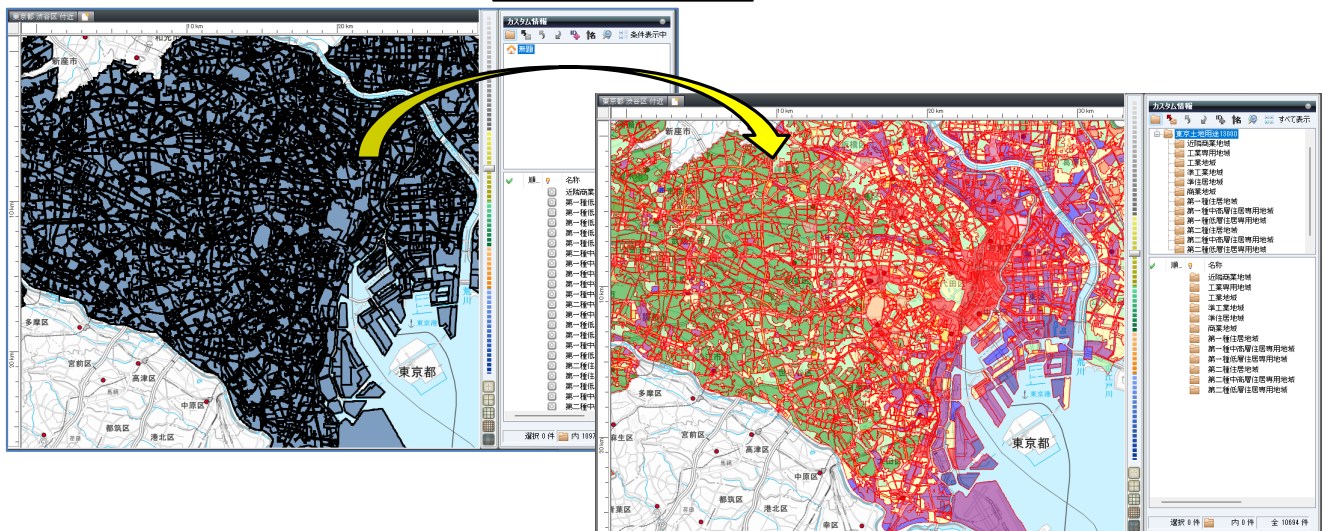
■ 事前の準備② 土地用途地域データのダウンロード

- ① 「国土交通省」の「国土数値情報」の「用地地域（ポリゴン）」サイトから、任意のエリアをダウンロードし、ファイルをダブルクリックし、デスクトップに解凍すると、作業が行いやすくなります。

※ GMLフォルダー内にある「GeoJSON」ファイルを使用します。（例：A29-19_13を使用）



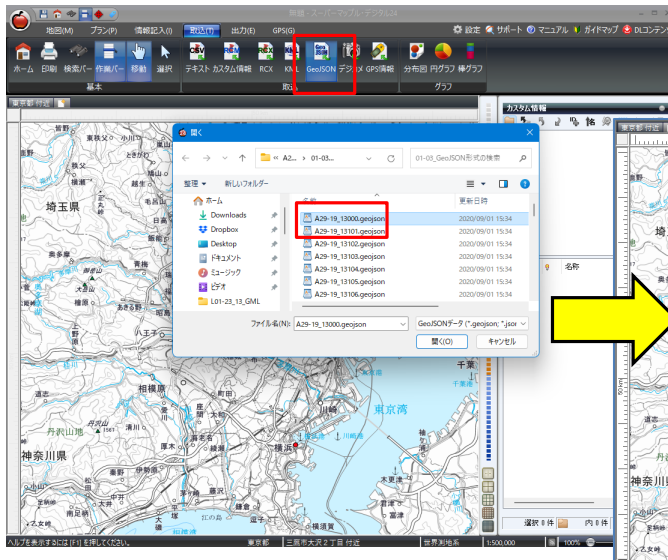
仕上がりイメージ



【GMLフォルダの『GeoJson』を取込み編集「ポリゴン編」】

- ① スーパーマップル・デジタルを起動し「取込」の「GeoJSON」をクリックし、「L01-23_13.geojson」の「開く」で取込んでください。

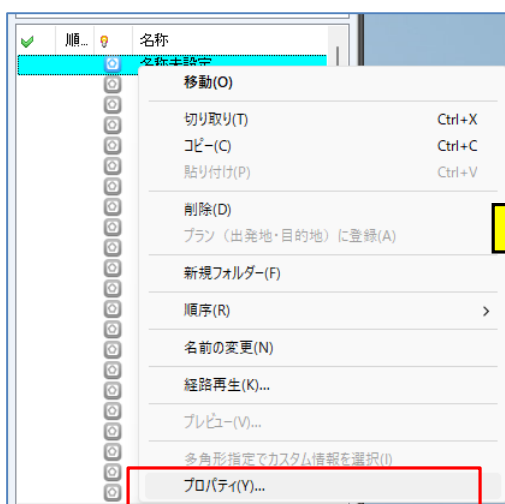
【ご注意】他のソフトで該当データファイルを使用していると「取込」ができません。



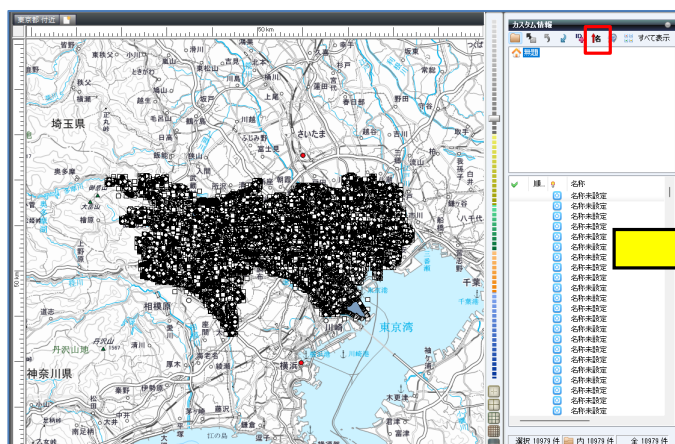
注：データ量により時間を要する場合があります。

GIS用のデータでは「一般の地図」における名称の項目が設定されていないこともあります。

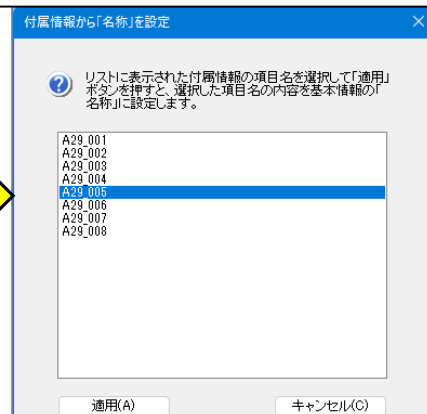
- ② で任意のデータを右クリックし、「プロパティ」を選択すると、カスタム情報の「プロパティ」開き「内容」が表示されます。「名称」にする「項目」を確認し、「OK」で閉じます。
例：A29_005項目に記載されている土地用途の「内容」を「名称」に設定します。



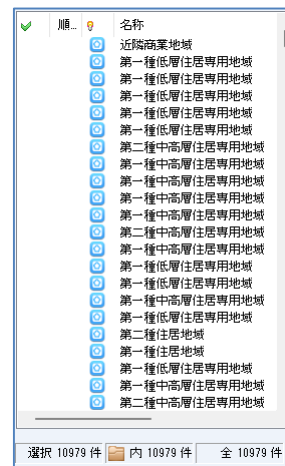
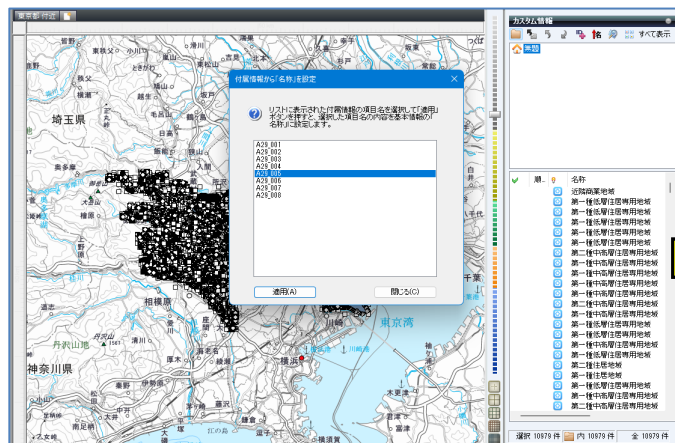
- ③ 「Ctrl+A」で全選択をし、[カスタム情報] 欄にある **名** をクリックします。
[付属情報から「名称」を設定] 画面が表示されますので、②で確認した土地用途の「内容」の「A29_005」を選択し [適用] をクリックします。



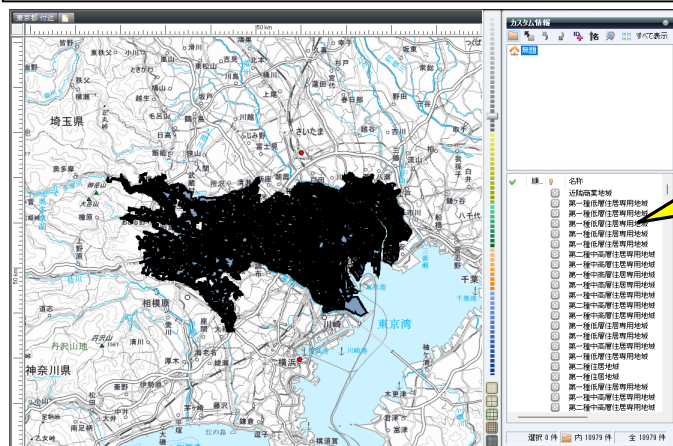
注：データ量により時間を要する場合があります。



- ④ [名称] 欄の名称に「土地用途」表示設定されます、
[閉じる] をクリックすると設定が完了いたします。



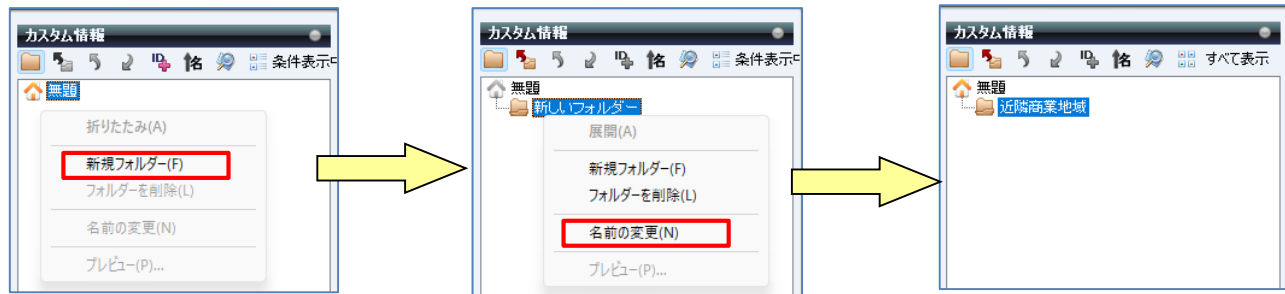
※選択を解除するには、[カスタム情報欄] の空欄をクリックします。



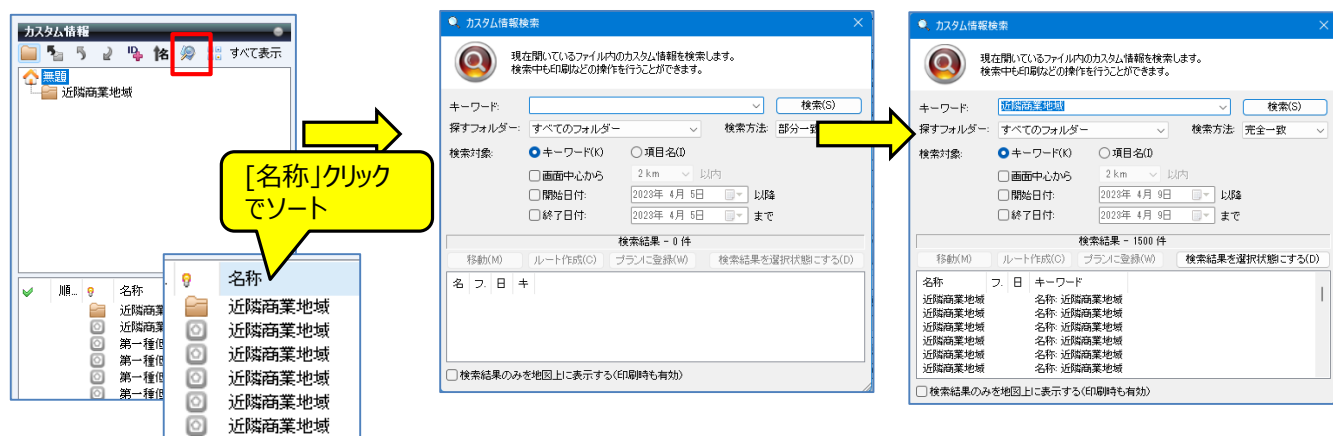
「Esc」キーで解除されます

【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー」分け】

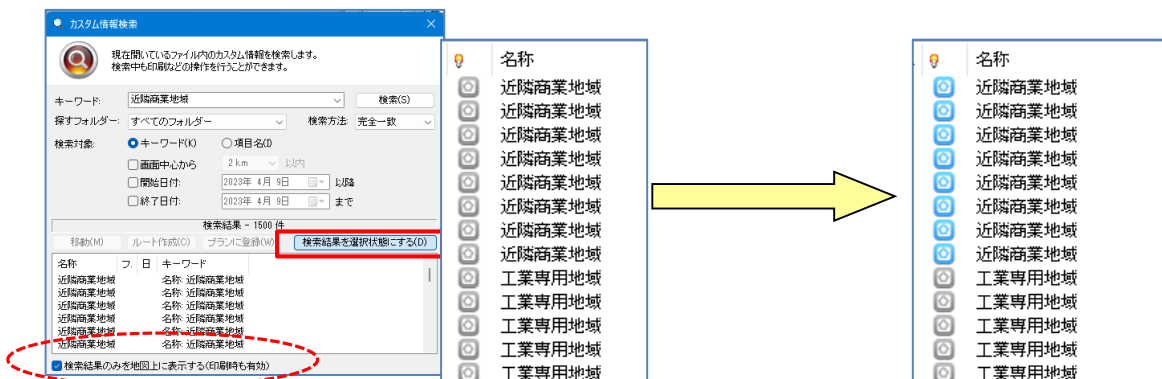
- ① 「土地用途」データを用途別にフォルダー分けにします。
カスタム情報欄で右クリックし、新規フォルダーをクリック。
[新規フォルダー] を右クリックして、フォルダー名（例：近隣商業地域）を入力します。



- ② [名称] 欄をクリックすると、「名称」がソートされ作業が行いやすくなります。
[検索] をクリックで「カスタム情報検索」を開き、[キーワード] に「近隣商業地域」を入力 [検索] をクリック。
※例：設定は「すべてのフォルダー、完全一致、キーワード」で行います。



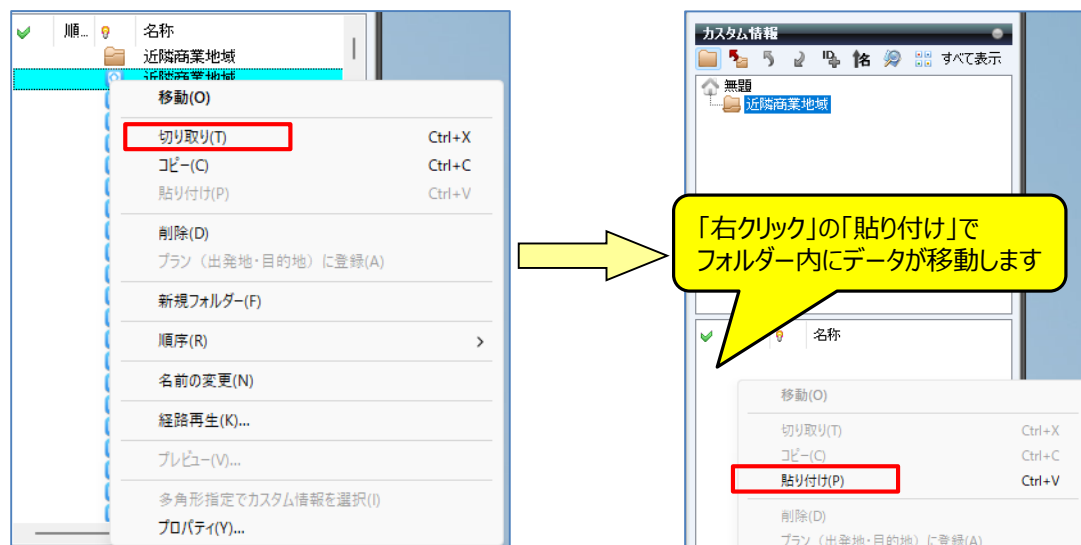
- ③ 入力された「近隣商業地域」で検索されます。
[検索結果を選択状態にする] をクリックすると、該当データが選択されます。



※「カスタム情報検索」画面下の「検索結果のみを地図上に表示する」に☑を入れると、該当データのみを地図表示します。

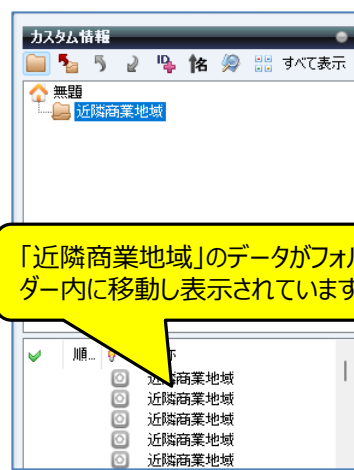
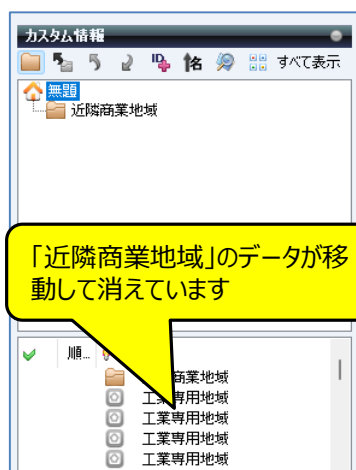
- ④ 検索された該当データ上で右クリックして、[切り取り] を選択します。

「近隣商業地域」フォルダーをクリックして貼り付けます



- ⑤ 貼り付け後、確認するため 無題 ホームをクリックし情報を表示します。

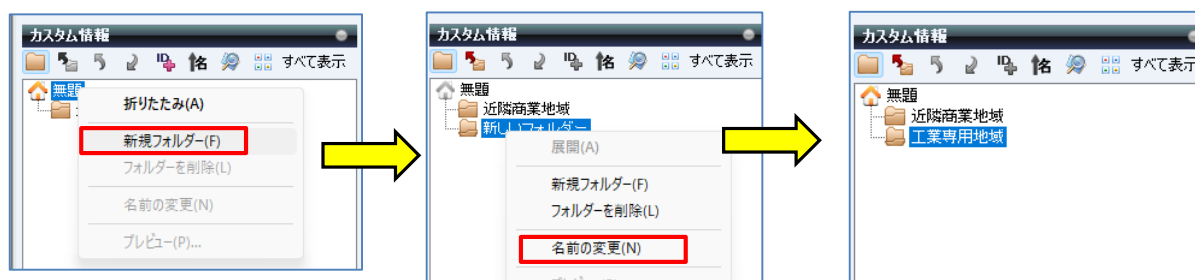
次に「近隣商業地域」フォルダーをクリックします。



【🍎ポイント】新規フォルダーを作成する場合は、その上位のフォルダーをクリックして作成します。


「近隣商業地域」に続けて「工業専用地域」以降を作成の場合

※手順：「無題」の「新規フォルダー」⇒「名前の変更」⇒「工業専用地域」となります。

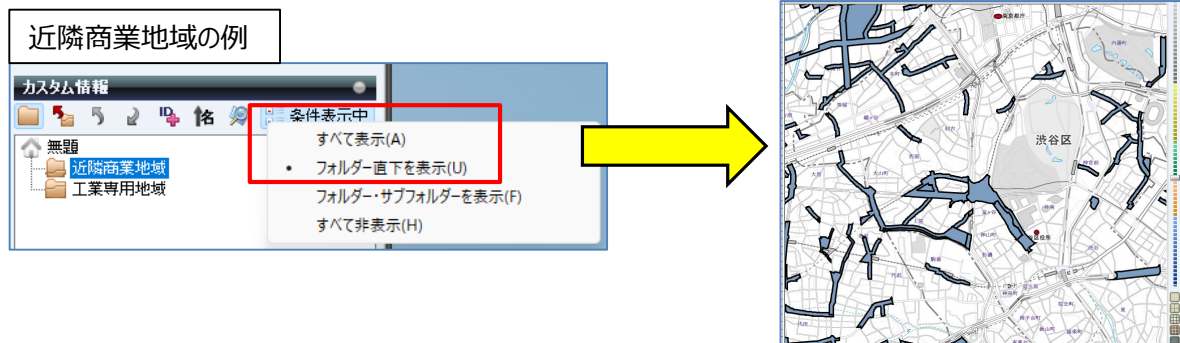


※「フォルダー分け」することによりデータ整理ができ、以降の工程の作業がしやすくなります。

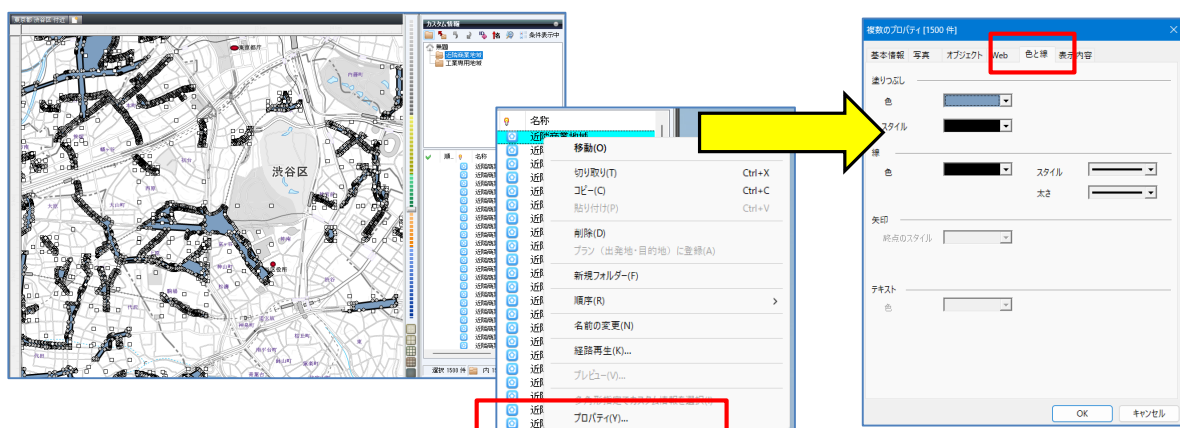
【「フォルダー」分けしたデータを目的に合わせて「色」分け】

① 「カスタム情報欄」の  を活用すると、該当のフォルダーのみの地図表示ができます。

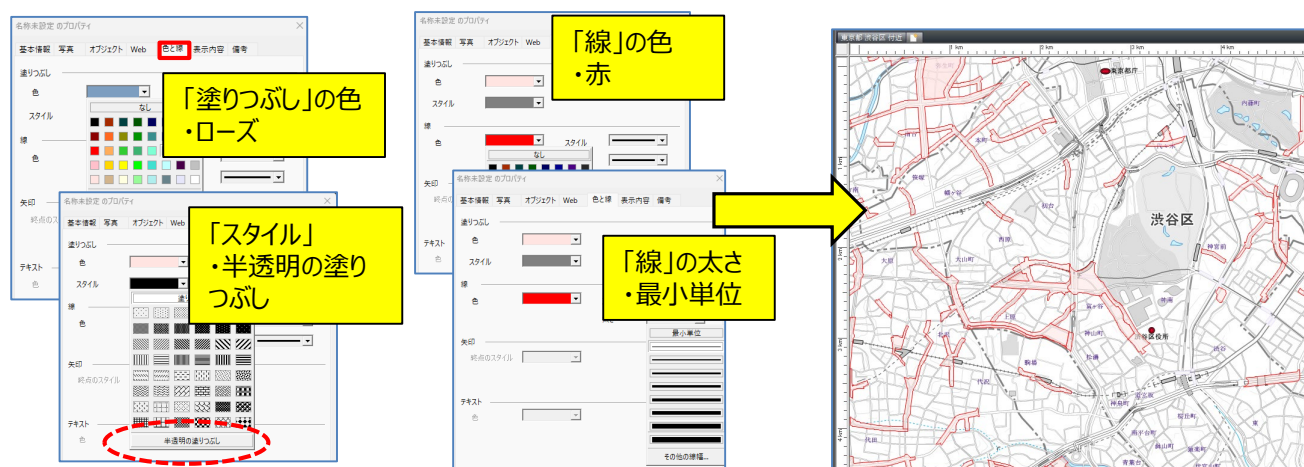
地図の表示縮尺を1/25,000程度にし、「フォルダー直下を表示」をクリックすると、該当のポリゴンが表示されます。



② 「Ctrl+A」で全選択をし、右クリックで「プロパティ」を選択します。
[プロパティ] の「色と線」タブで、色と線の太さを設定します。




③ 各項目を設定し「OK」をクリックします。



④ 「工業専用地域」以外の地域も①～③を繰り返し行うことにより、ポリゴンを任意の色にすることができます。

※表示方法を試してください。イメージがつかめるので、実際に表示方法を変更されることをおすすめします。

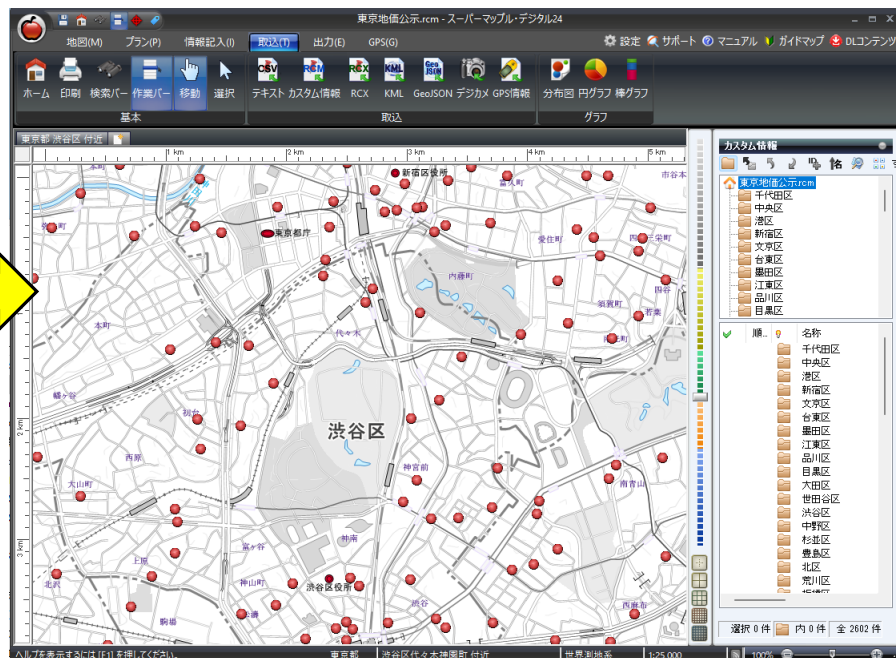
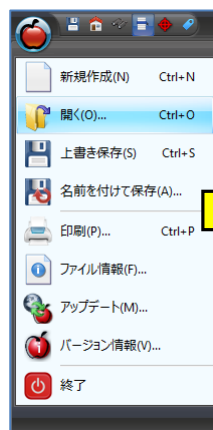
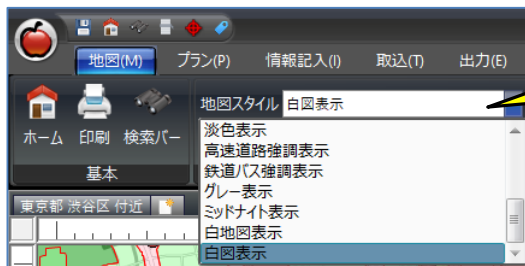
⑤  をクリックし「名前を付けて保存」を選択。スーパーマップル・デジタル用ファイル「カスタム情報」として保存してください。
作業を途中で終了するときでも「保存」してください。後に保存したカスタム情報（rcmファイル）で続けることができます。

■ カスタム情報を結合する応用編

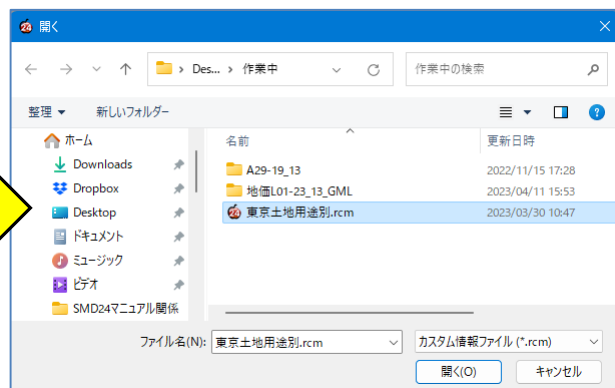
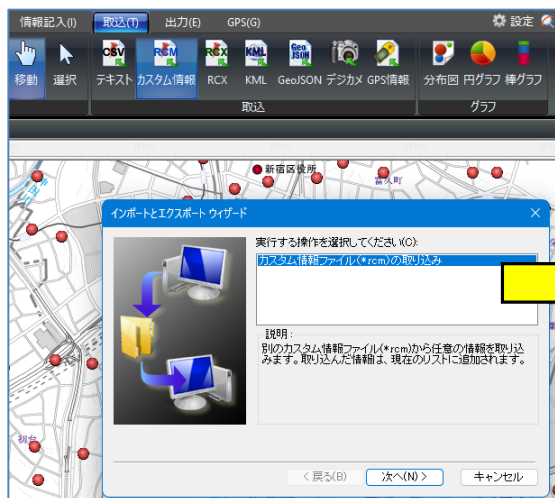
※カスタム情報で保存した、**東京地価公示.rcmファイル**と**東京土地用途別.rcmファイル**を使用します。

- ① 「メニュー」から「開く」で、「東京地価公示.rcm」を開き、縮尺を1/25,000程度にします。

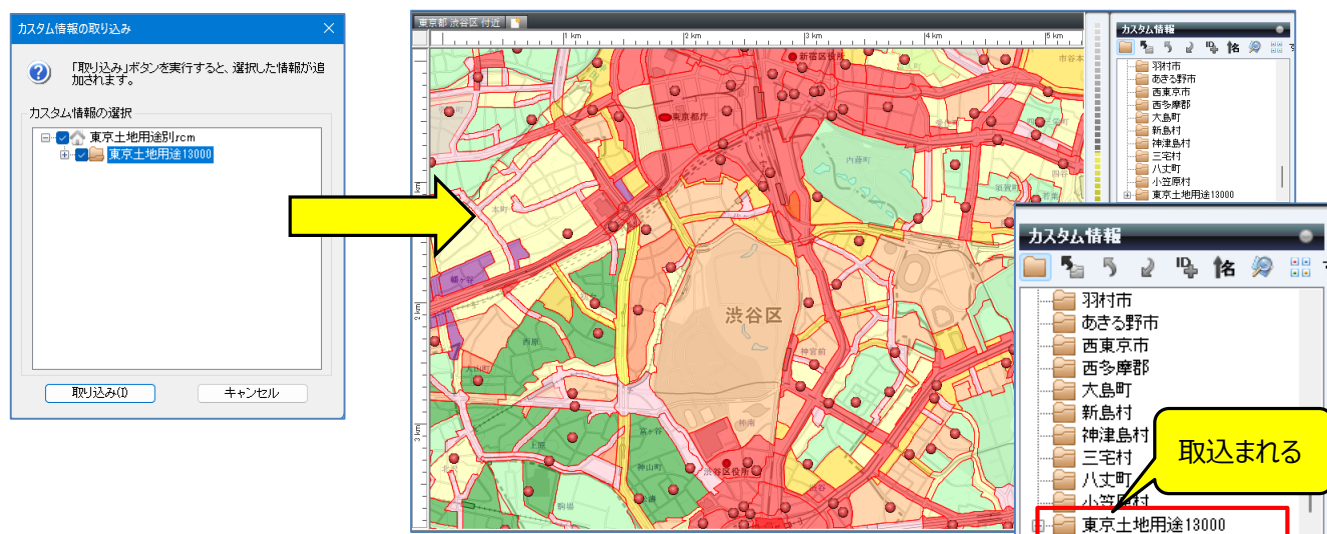
※画面内で表示するデータ数が少なくなるので、表示が早くなります。



- ② 「取込」の「カスタム情報」を選択すると、「インポートとエクスポートウィザード」が開きますので、「次へ」をクリックし、「東京土地用途別.rcm」を選択。

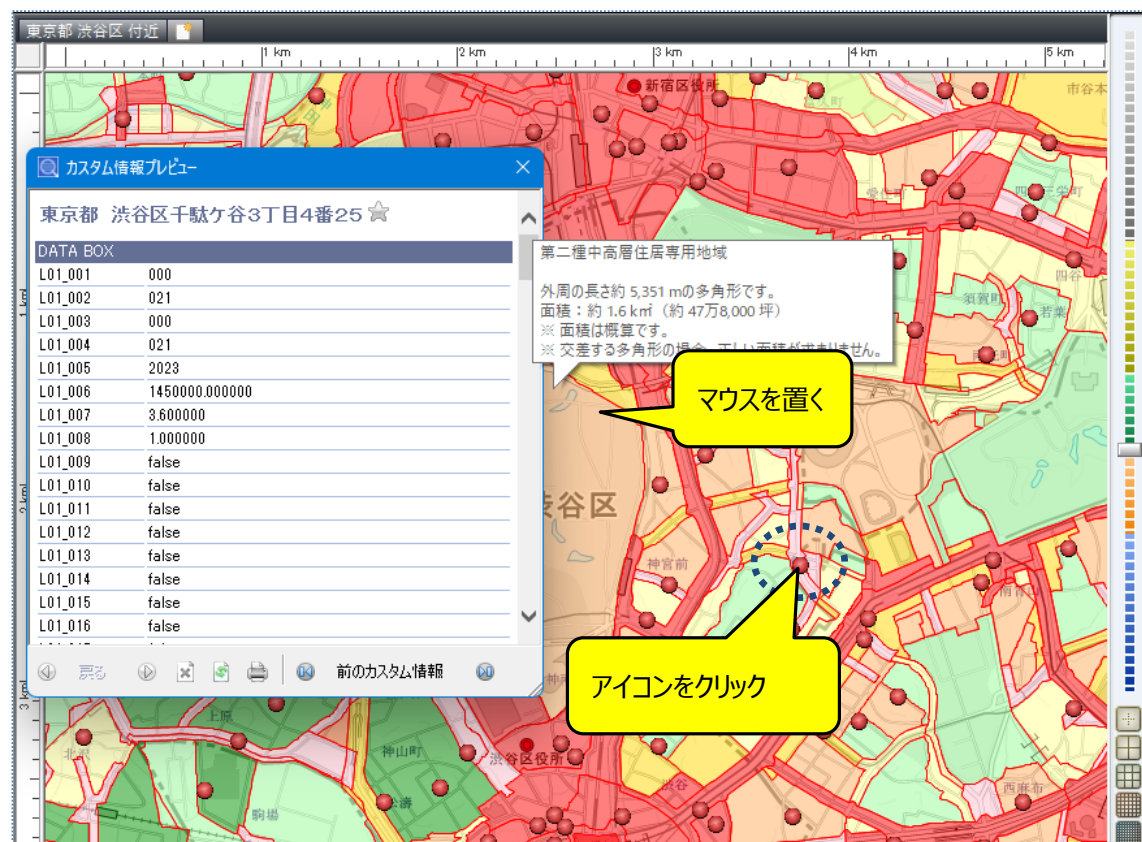


- ③ 「カスタム情報の取り込み」が開きますので、☒を確認し「取り込み」をクリックしてください。
 「テキスト情報」の「東京地価公示」に「ポリゴン情報」の「東京土地用途別」が結合され表示されます。



【ポイント】最初に開いた「カスタム情報」が上位になり、「取込」の「カスタム情報」はその下位になります。
 ※テキストのカスタム情報を先に「開き」、ポリゴンのカスタム情報を「取込」すると、テキストが上位にポリゴンが下位に表示されます。

- ④ 「テキスト情報」のアイコンをクリックすると「カスタム情報プレビュー」で内容を表示。
 「ポリゴン情報」の枠内にマウスを置くと、「土地用途」を表示します。



注意事項

製品名及び社名などは、各社の商標または登録商標です。

以上